

# CSCLにおける非同期的ディスカッションが協同的読解活動に及ぼす影響

○沖林洋平<sup>1</sup>・藤木大介<sup>2</sup>・小杉考司<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>山口大学教育学部・<sup>2</sup>梅光学院大学)

## 問題

本研究の目的は、CSCLにおける非同期的ディスカッションが協同的読解活動に及ぼす影響を検討することにある。CSCLとは、コンピュータによる学習者の協同学習の支援(Computer supported collaborative learning)のために開発されたWebによるプラットフォームのことである。本研究では、いくつかあるCSCL環境の中でもMoodleを利用した学習効果の測定を試みた。

CSCLではプラットフォームに装備されたフォーラムやメーリングリスト機能によって、学習者による非対面状況における非同期的ディスカッションを行うことができる。非同期的ディスカッションの特徴のひとつとして、対面状況における同期的ディスカッションとは異なり、入力された情報がWeb上に記録されるために、ディスカッション参加者に即時的対応が求められないという時間的制約によるコミュニケーションに対するプレッシャーからの解放があげられる。このような、CSCLをはじめとするe-learning環境の大学教育への利用は徐々に一般的なものとなりつつあるが、授業進行の手続き等については、体系的な知見はなく、各取組を報告していくことが重要である。

Table1

### 同期的/非同期的ディスカッションのサイクル

読書会実施日 2週間に一回	対面状況における同期的ディスカッションとしての協同的読解活動
次の読書会までの準備期間	CSCLを用いた非同期的ディスカッションとしての協同的読解活動 1. 前回発表者による講評 2. 指定討論者によるコメント 3. その他参加者による感想等の投稿 4. 次回発表者による材料のアップロード
読書会実施日 2週間に一回	対面状況における同期的ディスカッションとしての協同的読解活動

本研究では、このCSCLやWBT(Web Based Training)の技術的効用を利用して、学習者が中心となった学習教材の相互的読解活動を実施し、学生の課題への反省的活動に及ぼす影響を検討した。

## 方法

**実施時期** 2009年4月から7月まで

**研究協力者** 山口大学教育学部および大学院教育学研究科所属の学生19名が研究に協力した。

**手続き** 本研究は、学生の学習の一環として自主的に行った読解活動と連動して行われた。活動の基本的な手続きをTable1に示す。なお、4月から7月までの間に読書会は8回実施された。

## 結果と考察

本研究では、8回の読書会それぞれに対してセッティングされたMoodleのフォーラムにおける書き込みを分析対象とした。まず、読書会の実施前に非同期的ディスカッションが行われたのは0回であった。次に、読書会後に非同期的ディスカッションが行われたのは6回であった。非同期的ディスカッションが行われなかった理由は、当該回のフォーラムのセッティングが行われなかったことがあげられる。

次に、各回のディスカッションスレッドにおいて投稿されたメッセージについて検討する。ディスカッションスレッドは、指定討論者のコメントと、それに対するメッセージの投稿によって構成される。各回のディスカッションスレッドにおけるメッセージ投稿数の平均は、3.63(SD=4.24)であった。これは、指定討論者のコメントに対して、多くの場合において1回か2回のメッセージ交換が行われたのみであり、メッセージ交換が行われなかった回があることを意味する。

以上の結果は、本研究における実践では、CSCLを用いた非同期的ディスカッションがうまく機能していなかったことを示唆している。この理由について、本研究では推察にとどまるのみであるが、Moodle利用者に対するインタビューでは、対面でのディスカッションによって多くの疑問が解消されたことを述べるものが多かった。